

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	超高速ビジョン・トラッキング技術を用いた次世代情報環境システムの創生
研究代表者	石川 正俊 (東京大学・情報基盤センター・特任教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>実世界を対象とする情報処理システムの壁として、計算機の視覚機能と人間への情報提示の時間密度が低いという問題がある。本研究は、1,000fps の高速認識処理と提示制御という手法に基づいて、システムの機能限界と人間とのインタラクションの壁を打破することを目的としている。高速形状・運動計測、高速映像・力覚提示とその基盤を強化し、それらを含む全体システムを構成するための学術的体系化を図るとともに、新規の応用分野を創成する。</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>本研究は、世界的にも極めて新規性の高い機能を開拓してきた研究代表者らによるこれまでの研究実績に基づいて、それらの独自技術の基盤を体系化する計画を有しており、当該工学分野の学術を確立する点において意義がある。本技術により、人間と機械のインタラクションの時空間的ボトルネックが解消され、広く応用に展開され得る成果が期待できる。</p>